

整形外科外来だより

No 14 2007/012/01 けいゆう病院 整形外科 発行

◆今年も師走になりました◆

今年もあっという間に12月です。この1年間相変わらず待ち時間が長く、申し訳ございませんでした。整形外科では、現在待ち時間対策の一つとして投薬、注射が中心の患者さんには、自宅近くの開業医に転院して治療していただくことで、再診患者さんの人数を調整する対策をとっています。社会情勢からは病院の機能として、手術的治療が必要な重症患者さんを中心に治療することが要求されています。当科では来年も引き続きその方針が継続されますので、ご協力の程よろしくお願い致します。



◆姿勢が悪いと背中が曲がってくるというのは本当◆

今回は背中の変形のお話です。昔から「私は姿勢が悪いので背中が曲がってしまったのです」とおっしゃる患者さんがいらっしゃいます。それは本当なのでしょうか。いえいえ姿勢が悪くて背中が曲がってしまうことはありません。

背中の変形は後ろから見て背骨が左右に曲がっている側弯症と横から見て「猫背」に見える後弯症があります。側弯症は主に12歳から15歳頃の女の子でハッキリしてくる特発性側弯症と60歳以上の高齢の方で目立ってくる変性側弯症があります。特発性側弯症は中学生の女子では定期健診が行われていますので、今は早期に発見されます。当院でも毎月第4火曜日の午後に側弯症外来があり、このような患者さん方を診ています。いろいろ過敏な時期ですので一般の外来とは区別して診療しています。治療としては一定以上に変形した場合のみコルセットを着けていただきます。それでも変形が進行する場合は手術を行います。ただ、この変形で体の機能が障害されることはあまりないので、美容上の問題が手術の理由になります。したがって手術はかなり慎重に決める必要があります。

一方、高齢の方に見られる変性側弯症は増えてきています。原因は明らかにされていませんが、60歳、70歳になって背中のお瘤が出てきます。曲がっていても痛みがなければ特に治療は要りませんが、進行してくると腰痛や坐骨神経痛の原因となります。治療は脊柱管狭窄症と同じく、投薬やブロック注射が行われます。時にコルセットが必要なこともあります。頑固な痛みには手術も行われます。

また、猫背となる後弯症は殆どが骨粗鬆症による脊椎圧迫骨折が原因です。骨折を予防するといわれているベネットやフォサマックを服用して後弯になるのを予防しましょう。(文責 鎌田修博)